

# 高 伊那北高校同窓会会報

## 創立100周年へ始動 組織、事業計画などに着手

### 26年度定期総会開く

平成二十六年度同窓会総会は六月十四日、伊那市生涯学習センターで開催された。

北原明会長はあいさつで、6年後の西暦二〇二〇年に母校が創立百周年の大きな節目を迎えることに触れ、「この総会が終わり次第、百周年に向けて実行委員会の組織づくりに入りたい」と述べ、同窓会としての祝賀行事や記念事業に取り組むため、新たな組織づくりに着手することを公式に表明した。

同窓会はこれまで創立70、80、90周年などに各種の事業を開催。特に90周年では故加藤裕校長の遺志による三千万円の寄附を基に、同窓会員の寄附を募り、在校生の学

習センター「高志館」を建設するなど活発な活動を続けてきた。百周年はさらに大きな節目となるだけに、同窓会員の一層の物心両面の協力が問われることになる。

北原会長はさらに「百周年を迎えるに当たり大切なことの一つは歴史を編纂することだ。70周年で立派な史書を作つたが、伊那中創立当時の事情、昭和の生徒の事情（授業料未払いなど）、赤化事件、戦争の時代、女生徒入学・増加、甲子園大会3回出場などの史実をきちんと捉え、こうして歴史事實を学習することで、これから百年をどう展望す



発行  
伊那北高等学校同窓会  
TEL 0265(72)7312  
FAX 0265(76)5585  
<http://www16.ocn.ne.jp/~inakita/>  
印刷 (有)マスマタ印刷

のある老朽校舎の建て替えを、長野県に一層強力に働き掛けしていくと、元母校校長の体験を基に持論を展開した。

澤井淳校長（高26回卒）はこの一年間の生徒たちの文武両面の活動を詳しく報告。総会前の記念講演で、藤田保健衛生大教授湯澤由紀夫氏（高26回卒）が「伊那北高校の建学の精神は何か」と問い合わせたのに答え「伊那北には建学の精神というものはない。質実剛健・文武両道というのは校訓であって、目指すものは何かとなると不明だ。70年史の中で唐沢正国先生が述べられた「まことの姿・天真の姿を希求すること」が、それに対するのではないか」と語った。

このあと東條和彦関東同窓会長らの祝辞、メッセージの披露があつて議事に入った。竹松事務局長が会務報告を行い、特に、同窓会が昨年一般財団法人に移行したことに伴い、今後16年にわたつて法的に義務付けられる公益事業の一環として、クロスベン活動など教育支援事業がスタートしたことを説明。そのための財務状況改善のため新たに取り入れた①新入学生全員の終身会員化・会費負担②既卒

湯澤由紀夫教授が記念講演

総会に先立つて、藤田保健衛生大学医学部腎内科教授で同大学病院病院長の湯澤由紀夫氏が「医療イノベーションの現状と慢性腎臓病」と題して講演した。（要旨3ページ）湯澤氏は、腎臓病の専門医としての科学者の立場から、病院長という経営を兼ねることについて「いかに社会貢献できるか切磋琢磨したい」と強い決意を表明した。講演の中心は腎臓病治療だったが、難しい医学の話にかかわらず多くの会員が熱心に聴講した。

者への終身会費納入促進などの手段が、当会報の拡大・積極的送付等によって順調に進展していることを報告した。（詳報8ページ）

25年度の活動報告、決算報告、26年度の活動方針や総額六百四十万円に上る予算が満場一致で承認された。

閉会後、会場を移して恒例の懇親会が開かれ、講師の湯澤由紀夫氏らも参加。若い人たちも多数出席、世代を超えて盛り上がり、最後は「天竜河畔」「校歌」を声高く唄い閉幕した。